

# かわむら **こども** クリニックNEWS

Volume 23 No 6

263号

平成27年 6月 5日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

## 3歳児カリエスフリープロジェクト

院長

6月の虫歯月間に合わせて、4月から実施している「3歳児カリエスフリー85プロジェクト」を紹介します。仙台市では、「すこやか子育てプラン」「第2期いきいき市民健康プラン」を推進し、将来的に3歳児のむし歯の無い率を85%まで引き上げるという目標を掲げています。

まずは、現在の仙台市におけるむし歯の状況を説明しましょう。3歳児のむし歯の状況では、1人平均のむし歯数は約0.8本で、むし歯のある幼児の割合は22.1%です。政令指定都市ではむし歯のない率の平均は84.1%、仙台では77.9%で20都市中下から3番目です。一人平均のむし歯の数で比べると、トップの川崎市と比べ2.5倍も高いのが現状です。仙台市では以前から「歯と口の健康ネットワーク会議」を設置していましたが、乳幼児からのむし歯予防対策が大きな課題となっていました。そのような流れの中、小児に特化したむし歯予防対策として、検討部会が平成25年7月に創設されました。

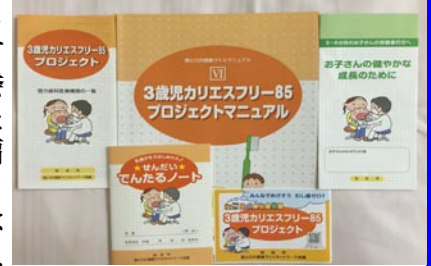
「3歳児カリエスフリー85プロジェクト」の取り組みとしては幾つかありますが、仙台歯科医師会・仙台小児科医会・東北大学歯学部小児歯科・仙台市等の関係主体が連携と協働し、乳歯の萌出期から「かかりつけ歯科医」を持ち、適切な予防処置（フッ化物塗布・シーラント処置）と保健指導を受けることができるような環境づくりを推進するものです。

さて院長の役割は、オブザーバーとして検討部会に9月から参加しました。部会長は東北大学小児歯科教授、委員には歯科医師会、行政の担当者などです。小児科医なのに、何故オブザーバーなのでしょう。従来、むし歯は歯科医師と行政で担当する考えが主流でした。院長はどこへ行っても、子どもの健康は小児科医だけでなく、子どもを見る全ての診療科の医師、医療従事者、加えて保護者を巻き込んで全体として対応することが重要と、機会がある度に述べてきました。むし歯は単に歯の問題だけでなく、生活習慣や虐待等の問題の現れであり、むし歯予防には生活習慣の改善、むし歯からの虐待の早期発見などもあり、小児科医にとっても重要な問題であるということも示してきました。その経緯を知っている仙台市の健診担当歯科医師の強引な

誘いを断れず途中から参加したのです。すでにプロジェクトの委員は決定していたため、オブザーバーの肩書きでの参加となりました。オブザーバーは発言権を認めてもらえませんが、無理に乞われて参加したという理由と部会長の配慮で自由に発言できるようになりました。初めて参加した部会では、全ての人たちが同じ虫歯予防という意識なのですが、立場が違うためなかなか議論がかみ合いません。表現はあまり適切無いかを承知の上で書きますが、小児歯科は学問、行政は理想、歯科医師は経営という点で、なかなか歩み寄れない状況でした。オブザーバーの意味を調べてみると“発言権や議決権がない会議出席者（傍聴者）”となっていますが、違う意味としてラテン語で「監視する人」ともいわれています。子どもたちの健康にとって虫歯予防は重要な要素であることを伝える以外に、調停役としての重要な役割を担うようになりました。それぞれの立場の発言のクッションとなり、虫歯予防対策の道筋が外れないように議論を修正する役割もありました。次第に全員の意思疎通と統一が図られ、具体的な活動に結びついたということは言うまでもありません。

平成26年度からは行政としての活動以外には、仙台小児科医会として「3歳児カリエスフリー85プロジェクト」講演会開催、それ以外に啓発資料の作成にも協力しました。写真は小児科医、歯科医師と行政の協力体制を示すもので、このように笑顔で協働した結果、順調に目的にたどり着くことができました。媒体はすでにもらった方もいるかもしれませんが、「せんだいでんたるノート」、パンフレット「8・9ヶ月のお子さんの保護者の方へ」を、小児科8～9ヶ月健診で渡しています。「でんたるノート」だけでなく、乳幼児のむし歯の予防に小児科医が協力参加することは画期的なことであり、他の自治体ではあまり例を見ない取り組みです。小児科医は内科的病気以外に歯科医医師と協力しあって、子どもたちの虫歯予防にまで取り組んでいることを是非知ってもらいたいところです。

最後にむし歯は予防可能な疾患です。むし歯になってからでは遅く、予防するにも早い時期からの対応が重要です。8～9ヶ月健診でパンフレットをもらったから、早めにかかりつけ歯科医を見つけ、適切な予防処置を受けましょう。



6月のお知らせ

医学部学生実習  
19日(金)  
ご協力をよろしくお願ひします。

・栄養育児相談  
3、24日(水) 13:30～  
栄養士担当 参加無料

Illustration of a smiling boy holding a toothbrush and a tube of toothpaste.

『がんばろう！宮城 がんばろう！日本』  
“みんなでやれば、大きな力に”

## 読者の広場

先月は8通のメールをもらいました。いろいろあったのですが、気になった相談事のメールを取り上げました。まずは青葉区の千葉さんから痛い思いをした水イボの相談です。紙面の都合上一部分を紹介しますが、全文はブログに掲載予定です。「いつも大変お世話になっております。先週、みゆうが膝裏に出来た発疹が水イボと診断され、ピンセットで潰す処置をされてきました。(略) 出先で水疱のようなブツブツになっているのがわかり、先週木曜日、午後開いている病院と探し、〇〇〇クリニックへ行きました。「水イボ」と言われ、「スイミング行ってる？辞めたら方がいい！」と言われ、「先が丸いピンセットで押ししてみるね！」と、説明の後、一つ一つ摘まんだようで...10 数個あったので、相当な痛みだったと思います。初めての水イボですが、治療はどこもこのような処置なのでしょう？水イボは移るからお風呂は最後。スイミングはしばらく休んでね!!と。14、15日と野外活動なのでお風呂はどうしたらよいか？と尋ねると「1日位入らなくていいでしょう」と言われて...。看護師さんから、薬の説明を聞いているとき、再度野活でのお風呂のことを尋ねると「大丈夫よ～絆創膏貼って入っていいよ！」と。スイミングも終わったら石鹸で綺麗に洗って...と。先生は「乾燥肌やアトピーの子は水イボになりやすいから、みゆうちゃんには違うスポーツが見つけられるといいなあ～」と。(略) まだ3日なので、跡や小さいものが残っていますが、14日からの野活のお風呂はどうすればよいのでしょうか？初日に登山があるので、お風呂、シャワーだけでも浴びさせたいと思いますが、みんなが上がった後にシャワー使用とした方がよいのでしょうか？また水イボの治療はピンセットで摘まむのが一般的なのでしょうか？麻酔もなくプチプチ摘まんで血だらけになっていて、さすがにがわいそうでした。みゆうも痛みに耐え頑張ってくれましたが「かわむら先生だったらどうだったんだろう...」と考えたようです。先生のご意見伺えると幸いです。よろしくお願い致します。」さて、皆さんはどう考えますか？果たして泣きながら「水イボ」と取るべきなのでしょう？そして好きなスポーツまでやめなければならぬのでしょうか。さらに医師と看護師の言うことが違うということは…。院長が送った答えは…。



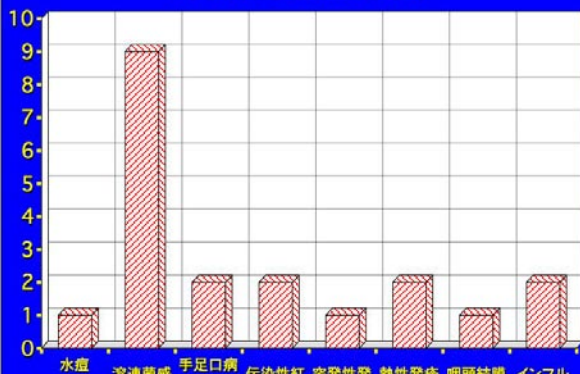
「みずいぼは子どもたちが多かれ少なかれ、ほぼ全員がかかります。もちろんお母さんも子どもの頃に済んでいます。だから子どもがみずいぼになっても、お母さんにはうつらないのです。みずいぼは増えても害は無く、残念ながら治療法もありません。しかしながら免疫がつくと消えてしまいます。ですから、今は痛い思いをして治療はしません。また学校でもプール禁止にならないし、スポーツ含めて特別な生活制限は必要ありません。もちろん、お風呂に入れても大丈夫です。皮膚科は皮膚を診ますが、子どもは診てません。だから痛い思いをして取るのです。これはずっと昔の考え方で、みずいぼを取る苦痛を与える必要がないと考えるのが小児科医です。ということです。」血を流しながら我慢させる、これはある意味虐待です。世の中には、我慢させてもしなければならぬことがあります。水イボには必要が無いことです。未だにこんな治療が横行しているのは、小児科医としては悲しいことです。」その後、うれしい返事を貰いました。

「おはようございます。お忙しい中、御返事ありがとうございます。先生の言葉を頂けて安心しました。心結に先生の言葉を伝えたら怒られそうです。相当な苦痛だったようで「かわむら先生だったら？」と、心結も考えたいですね...「やっぱり、木曜朝かわむら先生のところに行けば良かった!!」と...。また1つ勉強になりました。安心して野活に送り出せます。本当にありがとうございます。」

## 臨時休診のお知らせ

日本小児科医会総会フォーラム(大分)のため  
6月12日(金)～13日(土) 休診となります。  
皆さんにはご迷惑をお掛けしますが、ご理解とご協力を御願いたします。

## 5月の感染症の集計



全国的に増えているのに合わせて、溶連菌感染症が目立っています。溶連菌は原則咳や鼻水はなく、咽頭痛と発熱、そして発疹です。

今年は暑いせいか、夏カゼとして知られる手足口病や咽頭結膜熱(いわゆるプール熱)が出てきました。

インフルエンザBが一部の学校でみられましたが、大きな流行にはならなかったようです。先月感染性胃腸炎の集団発生を紹介しましたが、相変わらず多くみられています。

## Mail News, Twitter, Blog, Facebook の紹介

Mail News は、500人を超えるお母さんが登録。右上のQRコードから登録できます。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。

新しい情報発信として Twitter、Blog「子どもクリニック四方山話」、Facebook ページ、YouTube にも取り組んでいます。子育て、医学、趣味、グルメ、旅行記等のおもしろい話題満載。見るだけでも楽しいかもしれません。是非ご覧ください!

Mail News かなり戻ってきます。届かない場合は kodomo-clinic.or.jp をドメイン指定して下さい。不明な点は受付まで問い合わせ下さい。



MailNews



Twitter



Facebook



Blog

## 編集後記

先月は忙しさ自慢を編集後記にも書きましたが、今月も出張があります。日本小児科医会総会フォーラムで、全国的な小児科医の集まりです。院長は「小学4年生への「命の大切さ」を伝える性教育～学校・PTAとの協働～」を発表します。休診により皆さんにはご迷惑をお掛けしますが、よろしくご理解とご協力をお願いします。宮城県の新しい広報誌が創刊され、院長が掲載される予定です。お楽しみに!!



K's clinic

麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』  
『お母さんクラブ』現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。!!